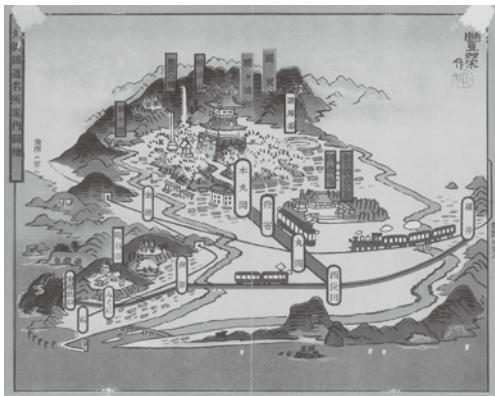


エピソードー みんなのお天守に

明治時代に入ると、全国のお城は消滅の危機を迎えました。お城を維持するためにはお金がかかるため、不要となったお城は次々と壊されようとされます。丸岡城も例外ではありません。1872年(明治5)には、競売にかけられ、土地・建物・立木にいたるまで売り

払われ、撤去されていきます。しかし、天守だけは解体に手間がかかるからそのまま放置されていました。のちに南保ら有志4名が天守を買い取り、その後、福聚寺住職の発案で天守の中に仏像を置いて、羅漢山長昌庵という寺として維持されることになりました。しかし、年数を重ねるにつれて、建物が痛みはじめます。そのため、天守を買い取った南保らの子孫は、1901年(明治34)、天守を丸岡町に寄付することになります。寄付を受けた丸岡町は、天守を人々が集まることのできる公会堂として利用することにし、城山は桜の木が植えられるなど公園として整備されました。こうして、丸岡城天守はみんなの「お天守」となりました。



城下豊榮画 丸岡鉄道沿線案内
(国際日本文化研究センター提供)

エピソード 2 お天守、国宝となる 〱荒田太吉の功績〱

1934年(昭和9)、丸岡城天守は国宝に指定されました。しかし、建物の痛みが激しく解体して修理しなければなりませんでした。しかし、修理に必要な費用のうち、地元丸岡町は約半分の3万円弱の負担をしなければなりません。この費用のため、多額の寄付をしたのが、丸岡町出身で、北海道で実業家として成功していた荒田太吉でした。

荒田は、丸岡町谷町に生まれ、15歳の頃、父親を追って北海道の根室へ行きます。しばらく父親の仕事を手伝っていました。独立し、漁業を始めとして数多くの事業を手がけ、1915年(大正4)から始めた海運業で大成功を収めました。彼は、会社経営事業だけでなく、多くの社会貢献も行っていました。地元・坂井郡にも丸岡城天守解体修理工事をはじめ、丸岡女学校(現在の丸岡高校)など教育施設へ多くの寄付を行っています。彼の寄付がなければ、現在の丸岡城はなかったと言っても過言ではありません。



天守解体修理に貢献した荒田太吉
(荒田一正氏提供)

エピソード 3 お天守の修理 く竹原吉助の功績く

費用の問題が解決し、解体修理工事を行うことになった丸岡城天守ですが、戦時中であり、物資不足や物価の高騰など様々な問題を抱えた工事でした。この難工事の主任技手として携わったのが、竹原吉助でした。

竹原は、長野県木曾福島に生まれ、15歳から宮大工の弟子となります。1915年（大正4）、国宝の修理工事に関わって以降、60年以上にわたり百棟以上の国宝・重要文化財の修理工事に携わりました。彼は「規矩術きくじゆつ（古式規矩）」という、日本の伝統建築に必要な設計技法の優れた技術者であり、「規矩術（古式規矩）」では初めての「選定保存技術保持者」として認定されています。

丸岡城天守の修理工事は、彼にとって14番目の国宝修理工事でした。主任技手として国から派遣された竹原は、その技術を遺憾なく発揮し、無事修理工事を完了させました。彼は修理工事中に記録として何枚もの写真を撮っており、彼の写真や記録が戦後の地震で倒壊した天守の再建工事の際、大きな手がかりとなるのです。



丸岡城天守前写真 左端 主任技手を務めた竹原吉助 右から二人目 桑橋茂二・丸岡町長
(公益財団法人文化財建造物保存技術協会提供)

エピソード 4 地震からの復興と友影町長の奮闘

1948年(昭和23)6月28日午後4時14分(当時はサマータイムで午後5時14分)、丸岡町を震源としたマグニチュード7.1の福井地震が発生します。そのすさまじい災害の様子から「福井烈震」とも呼ばれました。丸岡町では、建物の倒壊だけでなく、夕食の準備をする家庭が多かったため、あちこちで火災が発生し、丸岡町の戸数1680戸のうち半分以上にあたる1176戸が火災により焼失しました。この地震からの復興に奔走したのが友影賢世町長です。

友影は1947年(昭和22)、戦後の混乱の中で78歳という高齢を押しして町長となりましたが、就任1年を過ぎた頃、福井地震が発生します。自身も被災し、倒壊した建物の下敷きになりましたが、運良く生還し、先頭に立って災害復旧のために奮闘します。

友影は、丸岡町の復興を指揮しながらも、倒壊した丸岡城天守を気にかけて、町の復興が落ち着くと、天守再建に向けて動き始めます。



丸岡城天守修理工事写真より
友影賢世・丸岡町長 (井伊俊昭氏提供)

エピソード 5 よみがえったお天守 く井伊長善の苦労く

福井地震により倒壊した丸岡城天守の再建工事を技師として担当したのは、今立郡池田町の井伊長善です。のちに彼は、天守再建について、特に苦労したことを3点語っています。

第一に崩れた天守台の修復です。丸岡城の天守台は、野面積みという技法で造られています。この古い石積みを再現するために、全国各地の城を巡り研究を行う必要がありました。

第二に天守の組み立てです。地震で崩れた天守の木材は、乱雑に保管をされていたため、使えないものもありました。また、使える木材も、どの部分の木材か特定する作業が必要となりました。この時、解体修理で竹原吉助の撮った記録写真が活躍します。

第三に瓦を葺く作業です。丸岡城の瓦は石を加工した石瓦で

あり、6千枚近くの瓦一つ一つを彫刻する必要があります。結果、1953年（昭和28）2月から1954年（昭和29）6月まで1年半近くかかる作業となりました。

これらの難題をクリアしてこの年の11月、丸岡城天守は再び姿を現しました。



丸岡城天守修理工事写真より 現場主任を務めた井伊長善と丸岡城天守鯪鉾（井伊俊昭氏提供）

丸岡城天守年表

西暦	和暦	出来事
1576	天正4	この年、柴田勝豊が丸岡城を築城したと伝えられる
1624	寛永元	福井藩から独立し、丸岡藩が成立する
1624~1644	寛永年間	この頃、現在の丸岡城天守が整備される
1645~1649	正保2~慶安2	この頃までに丸岡城城郭が完成したとみられる
1695	元禄8	本多家が改易となり、有馬家が丸岡藩主となる
1871	明治4	廃藩置県で丸岡藩がなくなる
1872	明治5	丸岡城の払い下げ入札
1873	明治6	廃城令が発令、丸岡城は廃城になる
この間、南保ら有志4名が丸岡城天守を買い取る		
1879	明治12	この頃、天守が羅漢山長昌庵となる
1901	明治34	丸岡城天守が丸岡町へ寄付される 天守は公会堂となり、修理が行われる
1904	明治37	この頃、丸岡城天守の修理が完了したとみられる
1909	明治42	皇太子殿下（のちの大正天皇）が丸岡に行啓され、 天守3階が御座所となる
1934	昭和9	丸岡城天守が国宝（旧国宝）に指定される
1940	昭和15	丸岡城天守の修理工事が開始する
1942	昭和17	丸岡城天守の修理工事が完了する
1943	昭和18	修理工事完了の落成式が行われる
1948	昭和23	福井地震が発生。丸岡城天守が倒壊する
1950	昭和25	丸岡城天守、国重要文化財に指定される
1951	昭和26	丸岡城天守の再建工事が開始する
1955	昭和30	丸岡城天守の再建工事が完了する
2015	平成27	丸岡城国宝化推進室設置
2017	平成29	丸岡城天守の総合調査
現在に至る		

参考資料

全体の参考資料

丸岡町史編纂委員会『増補改訂丸岡町史』丸岡町、一九八九年

福井県『福井県史』通史編六近現代二、福井県、一九九三年

坂井市教育委員会文化課丸岡城国宝化推進室「知られざる丸岡城」丸岡城調査研究パンフレットNo.1～No.10、

坂井市教育委員会文化課丸岡城国宝化推進室、二〇一七～二〇二三年

吉田純一「丸岡城～ここまでわかった！お天守の新しい知見と謎～」坂井市文化課丸岡城国宝化推進室、二〇一九年

坂井市教育委員会文化課丸岡城国宝化推進室『丸岡城天守学術調査報告書』

坂井市教育委員会文化課丸岡城国宝化推進室、二〇一九年

坂井市教育委員会文化課丸岡城国宝化推進室『丸岡城学術調査資料集』第一集―昭和十五～十七年修理工事関係資料―、

坂井市教育委員会、二〇二〇年

第1章

丸岡町『霞城の影』丸岡町、一九〇九年

野間守人「本邦公園の成立を論じて現状に及ぶ」（『農学会報』農学会、一九二二年）

寺澤日晃『明暗の五十年』宗門時報社、一九三二年

竹越寅雄編『国宝霞ヶ城略史』霞ヶ城保存会、一九四三年

森山英一「名城と維新―維新とその後の城郭史―」日本城郭資料館出版会、一九七〇年

「加越日記」（大野市史編さん委員会『大野市史』第六卷資料総括編、大野市、一九八五年）

宮本久『越前丸岡城と歴代城主』宮本久、二〇一五年

「元丸岡城郭御払下入札人名帳」福井大学附属図書館高島文庫

「福田喚禅和尚弔辞」長昌寺所蔵文書

第2・3章

土屋純一 城戸久「越前丸岡城天守建築考」(建築学会編『建築学会論文集』十二卷、一九三九年)

服部文雄「匠の世界」規矩術」竹原吉助」(『月刊文化財』一九七九年七月通号一九〇、第一法規出版、一九七九年)

「官報」第二二二二号、一九三四年(昭和九)一月三十日

大阪朝日新聞一九三八年八月七日七頁「城をめぐる郷土の話題 霞ヶ城を根本的修理あす起工式を執行す」

福井新聞一九四三年一月十三〜十七日「本社主催座談会 新生霞城を語る」(1)〜(4)

竹原吉助 伊藤延男 鈴木嘉吉 村上詠一「特集 選定保存技術(古式規矩)記録 保持者 竹原吉助」

(『文建協通信』八七号二〇〇七年一月、文化財建造物保存技術協会、二〇〇七年)

この他、昭和23年頃に荒田太吉から家族が聞き取った内容を岩田金次郎氏がノートにまとめた「荒田太吉翁一夕昔ばなし(口述聞きがき)」(鈴木秀明氏提供)を参照している。

第4・5・6章

斎藤与次兵衛『新考坂井郡誌』福井県坂井郡社会科研究会、一九五〇年

『福井県統計書』昭和二十四年度、福井県、一九五〇年

重要文化財丸岡城天守修理委員会『重要文化財丸岡城天守修理工事報告書』

要文化財丸岡城天守修理委員会、一九五五年

丸岡町震災記念誌編纂委員会『お天守がとんだ 丸岡町・福井大震災追想誌』丸岡町、二〇〇〇年

丸岡五徳会『天守と俱に―友影賢世翁―』丸岡五徳会、二〇〇七年

「井伊長善メモ」井伊家所蔵文書

◆監 修 坂井市丸岡城調査研究アドバイザー
吉田純一
松浦義則
牧野行治

◆作 画 蒼田 山

◆巻末資料執筆 月僧亮我

◆資料提供

荒田一正所蔵 荒田太吉写真

井伊俊昭所蔵 井伊長善撮影丸岡城天守修理工事写真

公益財団法人文化財建造物保存技術協会提供

丸岡城天守前写真

国際日本文化研究センター所蔵

城下豊榮画 丸岡鉄道沿線案内

◆協力者ご芳名

荒田一正 井伊昭子 井伊俊昭 小林陽子 竹原章夫 鈴木秀明

友影九樹 南保岩雄 西浦 進 光山香治 長昌寺

坂井市教育委員会文化課丸岡城国宝化推進室

公益財団法人丸岡文化財団

(敬称略／順不同)

◆原案・編集 坂井市生活環境部丸岡支所

丸岡城お天守物語 ～天守を守った人々～

発行日 令和6年3月25日

発行 坂井市

福井県坂井市坂井町下新庄1-1

TEL 0776-66-1500

印刷 有限会社竹内印刷

福井県坂井市丸岡町富田町1-5

TEL 0776-66-0109

本誌掲載の漫画・文書・写真等の無断複写、複製、転載を禁止します。



友影賢世



荒田太吉



井伊長善



竹原吉助